

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で明るくやさしく」をモットーに利用者様と一緒に喜怒哀楽を共にしています。利用者様の残存能力を發揮していただけるよう、一人ひとりの力に合わせた役割りを見つけ、利用者様と職員が助け合って生活しています。また、家庭的な雰囲気大切に、季節の飾りつけをし、利用者様が混乱しないよう工夫をしています。旬の食材を使ったメニュー作りを心掛け、一人ひとりに合った調理方法で提供し、食事を美味しく食べていただく事を大切にしています。個別ケアを実践できるよう、職員の研修にも力を入れ、外部研修に多数参加しています。今年度も2ヵ月に1回の避難訓練を実施し、火災予防に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajgokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502199-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 25年 1月 18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームはバス停に近く、家族や知人が訪れやすい環境に位置しています。運営者は町内会の役員を務めており、相互の理解に繋がっています。地域の祭り際にはホーム前で子供神輿の披露があり、町内会役員が写真を撮ってくれるなど、深い理解と支援を頂いています。職員は30品目の食材を取り入れた献立を作成し、栄養バランスや食欲に繋がる食事を提供しています。元居酒屋経営の利用者の思いに応え、昔経営していた居酒屋を訪問し、新しい経営者の協力の下に、運営者、職員2名、家族の方も同伴し馴染み等の継続支援に努めています。職員は利用者を自身の親に置き換えて、心身に寄り添うケアサービスに努めている「グループホーム 北海ハウス」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に復唱し、確認している。	当ホームは、地域密着型サービスの意義を含んだ運営法人理念を共有しています。ユニットによっては独自の理念を策定し、実践に向けて日々のケアサービスに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、地域の保育園児の来訪。行事毎の交流。	運営者は町内会役員を務め、相互の理解に繋がっています。近所の保育園児の散歩時や、月1回の来訪時で触れ合いがあり、さらに、ホーム前での子供神輿の披露や、七夕祭りでは地域の子供達との交流もあり、利用者の楽しみ事になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパーの実習の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	発声練習の提案があり、毎日の体操時に実施している。	運営推進会議は定期的開催され、家族や町内会役員、地域包括支援センター職員、知見者に参加を頂き、災害対策やホームの課題等を協議し、運営に活かしています。前年度の目標である、全家族に会議開催日の案内や議事録を送付する事により、家族の参加が増えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者連絡会議に出席し、札幌市担当者には運営の相談をしている。	行政とは運営推進会議や実地指導、各種認定時や報告等で行き来する機会があり、意見や情報を交換しています。課題が生じた時には、担当窓口を訪れたり電話等で相談し、意見や提案を質の向上に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵をせず、転落の危険性のある方は、ベッドを低床にし、床に毛布を敷き、鈴をつけて体動がある時にわかるよう工夫している。	身体拘束をしないケアのあり方を外部研修や勉強会で理解を深め、ケアサービスに取り組んでいます。不適切な支援が見られた場合には、職員間で注意し合える関係作りに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、会議等で報告をし、勉強会でも取り上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、会議等で報告をし、勉強会でも取り上げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時は十分説明を行い、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話等でお話をする際、要望を聞き、すぐ実施できるよう努めている。	家族には、ホーム便りや個別の暮らしの様子を便りで報告し、ホームの理解に繋げています。日々の関わりや家族来訪時、電話等で要望を把握していますが、表出された課題の取り組み記録が十分ではありません。	家族の言い出しがたい心情の汲み取りに努めていますが、課題解決に向けた対応内容の記録に取り組むことを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談時や要望を話した際には、少しずつ反映してもらっている。	運営法人職員が常時ホームを訪れ運営状況を確認しています。日常業務や、月1回のユニット会議、運営法人職員、ホーム長による個人面談を実施する中で、運営に向けた職員の意見や考え方を捉え、質の確保に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいよう、その都度話し合い、意見を反映できるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握し、外部の研修に参加させてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修のグループワーク等で交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の困っている事、不安に思っている事を聞いたり、普段のコミュニケーションの中で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初、面会時に不安な事、要望を聞きながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福井用具の必要な時に本人や家族に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段のコミュニケーションの中で築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、ご家族の希望等を尋ねながら、支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前勤めていたお店へ外出し、当時を思い出すきっかけを作り、いつまでも繋がれるよう支援している。	利用者が築き上げた人間関係や、馴染みの場所との関係を尊重した支援を心掛けています。友人、知人の来訪受け入れや、電話、手紙の取り次ぎ、以前の勤務先への訪問支援、墓参りや懐かしい場所への訪れは家族の協力も頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルを未然に防ぎながら、円滑な関係が築けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時に本人・家族の希望を取り入れ、意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向は、生活歴や家族からの情報、日々の関わりでの会話や表情から汲み取り、その人らしい暮らし方への支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に職員全員でアセスメントし、生活層等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況に応じてケアプランを見直し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者やリーダーが本人・家族に要望を聞き、モニタリング、会議で意見交換を行い、ケアプランを作成している。	介護計画は、利用者や家族の意向を確認し、看護職員、担当職員の意見を踏まえ、職員全員の意見や提案は活かされていますが、介護記録との連動性は十分ではありません。	介護計画の目標に添った介護記録を記載することにより、支援内容の再確認に繋がる記録の整備への取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、気付いた事等を連絡ノートに書き、申し送りで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況によって、通院の介助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員の意見を参考にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	かかりつけ医への受診は家族が支援していますが、困難な場合は職員が同行しています。看護職員による健康チェックや協力医療機関の送迎による受診、月2回の往診も行われ、適切な健康管理が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護職員が来て、日ごろの健康管理や相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員も行ける時には見舞いに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に対応できる範囲を説明し、必要な時に再度話し合いを行っている。	重篤時に於ける対応指針を作成し、利用開始時に説明しています。看取りは行っていませんが、ホームとして出来得る最大限の支援に努め、状態変化に応じ家族、医療関係者と情報を共有する態勢を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員ではないが、研修に参加して身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者と共に避難訓練を行い、非常食も準備している。	消防署の指導の下、年2回夜間想定避難訓練を実施しています。また、ユニット毎に、2ヵ月に1回自主訓練も実施しています。消防署の指導もあり、各ユニットの訓練体制を整えてから、全体の訓練実施を計画しています。災害備蓄品は用意しています。	自然災害の実践的訓練や、非常時における地域の課題解決に向けて行政、町内会との連携強化、防災設備の点検、地域の方々の協力を頂いての全体訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けているが、介助中に不適切な声かけをしている事もある。	尊厳やプライバシーについては、外部研修や勉強会で理解を深め実践に努めています。言葉掛けや支援を行う上で配慮が十分でない場合には、職員間で話し合いが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて、表情を読み取ったり、自己決定できる働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りの支援はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、定期的な訪問美容でカット等してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭き等、職員と一緒にやっている。	利用者の協力を頂き、1人ひとりの好みや旬の食材を中心に、30品目の食材が活かされた食事作りに努めています。利用者の状態に応じ、代替食を用意したり食事形態にも配慮があります。利用者と一緒に作った漬け物も食卓に上っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の足りない利用者には、好きな飲み物等を提供して確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが、できる利用者には毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えによってトイレに行っているが、失禁している事が多い。	排泄チェック表や仕草から、声掛けや誘導でトイレでの排泄支援を行っています。排泄の自覚があまりなかった利用者が、支援により自らトイレに行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を使用するようにしており、便秘時には下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の利用者に対しては、声かけの工夫をしている。	同性介助の下、午後に週2～3回の入浴支援を行っています。利用者の状態や要望に配慮し、シャワー浴や足浴、毎日2回の清拭を行い、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れている時は、臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬情報をファイルし、職員全員がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きやタオルたたみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食に行ったり、普段行けない所に出かけている。	天候の良い日は、周辺の散歩や屋上で気分転換を図っています。公園でお弁当を食べたり、ドライブを兼ね花見や動物園などの行楽地巡りをしています。墓参りや温泉など、家族の協力も頂きながら個別支援も行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に相談し、協力を得て、少額のお金を持っている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという方には、ホームの電話を使ってもらい、やり取りができるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロア等には、四季折々のディスプレイを飾り、季節を感じていただいている。	共用空間は採光や空調、清掃に配慮しています。季節の行事に合わせた飾り付けや利用者の作品、行事の写真、絵画等が展示され、穏やかな雰囲気になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で独りになれたり、思い思いに過ごせるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室の入口にはメモリアルボックスが設置され、利用者の好みの飾り物が収納されています。馴染みの家具や調度品等が配置され、居心地の良さが感じられる空間になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう工夫したり、日付けがわかるような工夫をしている。			